離床センサーのパイオニア・テクノスジャパンがお届けします

テクノス通信

VOL. 37
Jun.2012

「転倒・転落リスクのアセスメント②」

転倒・転落事故の防止策として多くの医療機関でまず実施されるのが、「転倒・転落アセスメント」ではないでしょうか。
今月も、アセスメントについて 4 つの病院様からお聞きした情報をご紹介しますので、ぜひご参考にしてください！

■アセスメントの有効性

危険度	スコア	事故を起こした患者の割合	事故を起こさなかった患者の割合
Ⅲ	20 点以上	73%	28%
Ⅱ	10 ～ 19 点	27%	41%
Ⅰ	1 ～ 9 点	0%	31%

アセスメントの結果、危険度が高いと判断された方の事故発生率が高いですね。

『実践できる転倒・転落防止ガイド』より

K病院様【400 床・一般病院（急性期）】

■重視、または独自に設けている項目
【運動機能障害】、【認識力】、【薬剤】、【病状】を重視しています。

■アセスメント実施者
担当看護師

■アセスメント実施時期
入院時、入院後 1 週間目、状態や環境に変化があった時

■アセスメント結果の情報共有と対策への活かし方
危険度Ⅱ、Ⅲに該当、もしくはアセスメントの危険リスク項目でチェックされた患者様には、転倒・転落事故防止計画を立案しています。
計画の立案時または、状態に変化があった時にはケースカンファレンスを行い、ケアに関する注意事項について伝達し、情報共有を行っています。

■重視していること、課題など
以下の 2 点を特に重視しています。
①全ての実施者が共通の基準でアセスメントを実施できる事
②個々の患者様の転倒・転落に関連する重要な特徴をアセスメントする事

T病院様（1000 床・特定機能病院）

■アセスメントスコアシートで重視、または独自に設けている項目
【既往歴】、【活動領域】、【認識力】、【薬剤】を重視しています。

■アセスメント実施者
担当看護師

■アセスメント実施時期
入院当日、入院後 1 週間ごと、病状に変化があった時

■情報共有と対策への活かし方
アセスメント後、リスクが高いと判断した場合は、「転倒・転落防止対策申し送り用紙」に記入し、各勤務帯で申し送りを行っています。
また、ベッドサイドに「転倒・転落防止チェック表」を設置して、各勤務で必要項目をチェックしています。
入院時のアセスメントで、転倒歴がある、転倒リスクが高いと判断した場合は、早い段階から離床センサーを適用しています。

■重視していること、課題など
アセスメント結果が危険度Ⅱ以上の方には、看護計画立案を義務付けています。
また、睡眠剤を服用していたり、発熱がある方もリスクが高い傾向にあるので、看護計画の立案と不定期ラウンドを義務付けています。
正確なリスクの把握と適切な対策実施のために、アセスメントスコアシート、転倒・転落防止対策の項目は、常に見直しが必要です。

W病院様【500 床・一般病院（急性期）】

■重視、または独自に設けている項目
【転倒の既往歴】、【認識力】を重視しています。

■アセスメント実施者
担当看護師

■アセスメント実施時期
入院時、手術など状態に変化があった時

■アセスメント結果の情報共有と対策への活かし方
担当看護師と看護チームのリーダーでアセスメントシートをチェックして対策を検討します。
転倒リスクが高いと判断した場合、離床センサーの適用を検討します。

■重視していること、課題など
現行のアセスメントシートでは、全ての患者様がいずれかの項目に該当するため、「転倒リスクあり」となります。そのため、アセスメントが形骸化し、機械的作業になりがちで、必ずしも有効な対策を導き出せていない傾向があります。
現在、患者様のタイプ別の対策フローチャートの作成を検討中です。

U病院様【250 床・一般病院（回復期）】

■重視、または独自に設けている項目
【身体的障害】、【認識的障害】、【活動状況】を重視しています。

■アセスメント実施者
看護師・PT・OT・ST・介護福祉士

■アセスメント実施時期
初回アセスメントは、入院日の 16 時に実施します。
まず、担当看護師が、患者様の身体機能や心理面の問題を評価します。
1 週間後に、看護師ほか PT・OT・ST が評価を見直しています。
転倒発生の際は、発生当日に同一メンバーで対策を検討します。

■情報共有と対策への活かし方
情報伝達は、電子カルテ上のコミュニケーションツールを利用して担当部署全員にメールで配信します。
また、患者様の状態に関する情報を共有するために電子カルテ上に「りん」という画面を設けています。
「りん」の画面では、患者様の転倒リスク、ADL などの病棟全体の情報を俯瞰的に見れる事に加え様々な条件設定が可能ですので、多数で情報共有ができます。

【情報画面「りん」】

■重視していること、課題など
●重視している事
とにかく「現場を見る事」です。
特に転倒が発生した場合は必ず現場を見て評価します。
併せて KY 能力を高め、危険を予測して対策を立てる事を心がけています。
●課題
生活場面での身体拘束を 0 にする取り組みを行っています。
私たち回復期の病院では、活動性を上げながら事故防止に取り組んでいますが、事故防止のための対策が、身体拘束や人権侵害に繋がらないよう注意しています。

「転倒・転落アセスメント」の特集いかがでしたでしょうか？
来月号は「転倒・転落事故への人的対策」について特集します。
ぜひご期待ください！！

無断の複製、転載は固くお断りいたします。Copyright(C)2012 Technos Japan Co.,Ltd. All Rights Reserved.